

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ● 第92回 ●

### ■ 半分の記憶

最近「働き方改革」で会社に留まることが悪となつてしまった。基本は20時までには退社しなくてはならなくなつたし、休日のメール送信もチェックされるようになった。こうなると必然的に家にいる時間が長くなる。幸い私は連珠関係で時間はいくらあつてもやることはあるので助かつている。しかし連珠一辺倒では飽きるの、その他のことにもいろいろ手を出している。ドイツにいた頃に近いう状況だが、その時にはなかったものも今はある。例えばAbemaTVによる将棋生放送である。藤井フィーバーでインターネット中継も十分元が取れるのだから。視聴者の立場としては

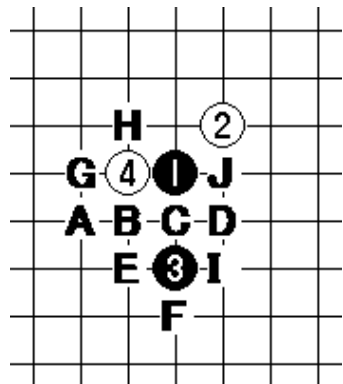
ありがたい話で、順位戦も放映してくれるのが助かる。加えて、前々から公言しているようにアイドルのユーチューブも相変わらず見ている。

最近の一押しがげやき坂46（通称ひらがなげやき）である。ひらがな表記にしているのは樗坂（通称漢字樗）とは違うグループだからである。もともとは樗坂の下部組織（野球で言う2軍、乃木坂で言うアンダー）として結成されたが、樗坂のセンター平手友梨奈ちゃん（の体調不良もあつて一気に主役に躍り出た。（表題の「半分の記憶」はひらがなげやきの2期生の代表曲のタイトルである）

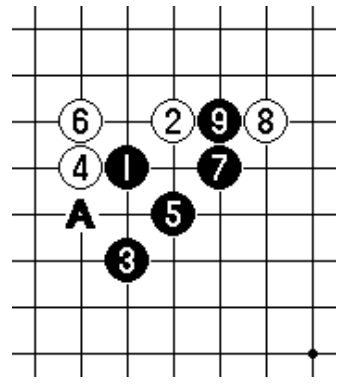
対策はちゃんとする。今日はそのを伝授しよう。①まずは1つの珠型を徹底的に調べ、仮先ではそれしか打たない②仮後が問題になるので、残りの珠型で1つずつ白4での作戦を持つておく③その場合、できるだけ2つ以上の珠型との共通形が良く、題数も八題の作戦を研究しておくというのである。基本的には題数指定打ちと同じ考えではあるが、題数指定打ちが仮後の時作戦を狙い撃ちできないか、ことに対し四珠交替ならかなりの確率で狙い撃ちができる。これから、いくつかの事例で説明していこう。

前回、2次予選の最終局で館君に明星を指定されて困ったという話を書いたがその対抗策として考えたのが次の図。

白4は金星と共通というのはすぐわかる。こんな形

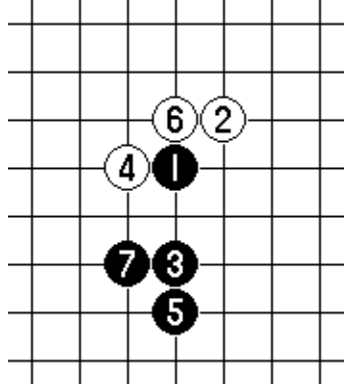


なんか見たことない、という方が効果的である。黒5を調べてみると、A～Hまで打てそうなのでこれ八題ある。I、Jも打てそうなので10題行けるかもしれない。「じゃあ作戦としては無理なのでは？」と思うかもしれないが、いきなり白4と八題と言われたら、たいていの人は白を持つ。そこで自分の研究を披露すればいいわけである。黒を持たせても、おそらく何題かは白2のまわりに打ってくるだろうから、それに対応すれば良い。たいていは混戦形で普通に打っておけば負けることはない。



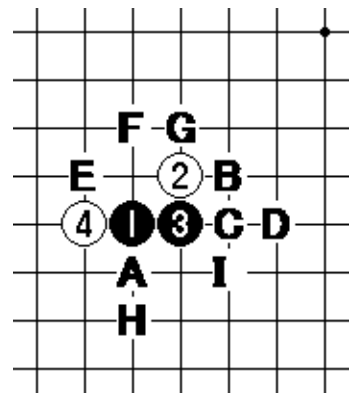
ぱつと見ると黒5、白6で白が有利なように見えるが、Aと琴柱に戻すよりも黒7、9と打っておけば黒が有利に展開できる。

また、次の黒5なども通る用するなんてことは、研究していないと打てない。こういうのを発見することが研究の醍醐味である。



これらの変化を調べておけば、明星と金星を指定された時に白4と八題を指定すればこちらの土俵に引き込める。四珠交替はこちらの土俵に引き込んだ方が有利という状況がしばらく続くだろう。とにかく、仮後で相手の言いなりになるのは危険だ。

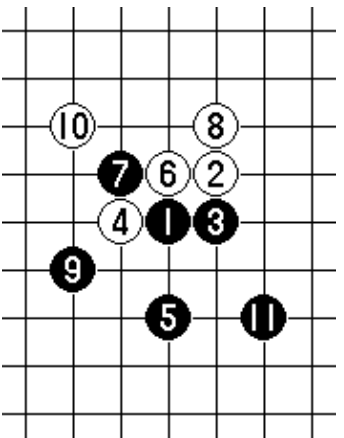
次にご紹介するのが白4までの形である。白4までなら雨月・雲月・松月が対応できる。ここで大事なのは、Iで斜月に戻るが、その手を含まないで八題を見つけることである。この形で八題は多いと思うので、黒を取りたくないからおそらく黒を持たせられると思うのだが、相手は「最悪Iが入るだろうからそこで戻せばいい」と思っているはずだ。その思惑を外すのが精神的に優位に立つコツでもある。もちろんその八題である程度打てる研究が必要なのは言うまでもない。



CやEは私が連珠世界に掲載しているが、ほぼ黒勝ちと言うのが定説である。

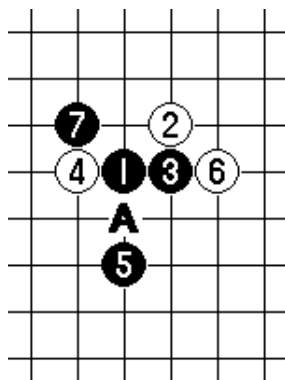
(実際に実戦で現れたら勝てる保証はないとは思いますが) DやHやGが新しい候補なので、そこを調べておけば良い。

Hと打った時に怖いのが白の反撃である。白8と引



き、白10が白の狙いだが、黒11とけん制する手がある。こういうのを見つけると楽しくなる。

実は白6では譜のように打てば松月に戻る。しかし、黒7で7やAに打って松月の形に戻せばこれはこれで互角だろう。



先にも書いたように、四珠交替ではいかに自分の土俵に引き込むかが勝負となる。今まで打たれていない白4を深く掘り下げて研究することで、自分に有利にすることが多い。最初のヒントは実は人の対局から得られることが多いので、人の対局を観察することから始めてはいかだろうか。